

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	平成26年6月5日	評価結果市町提出日	平成26年8月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600285-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 7 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさと現場独自で「笑顔・家族」をモットーに日々接している。周辺には広大な土地と、自然豊かな場所で、散歩コースもある。お風呂は榊原温泉の湯を利用しておりゆったり入浴している。行事は、夏祭り・敬老会・クリスマス会・外食など多彩で楽しんでいる。火災時対応避難訓練にも力を入れており、職員間でも浸透してきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑の多い高台の静かな環境の中にあり、利用者各人の居室の窓からの景色もよい。散歩コースもあり外出も多く、そのためかお元気な方が多い。設立後10年以上経ち、地元自治会との交流も出来ている。特に夏まつりは「地元のお祭り」になっており、近隣住民の参加を得て、盛大に催されている。事業所理念の「笑顔」が職員全員に共有されており、ゆったりした気持ちで支援しているので、職員同士の仲も良い。利用者も落ち着いた静かな方が多く、穏やかな表情が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふるさと現場独自のモットーである「笑顔・家族」で、職員間が良い雰囲気を保てるように努めている。	常に理念「笑顔」を念頭に仕事をしている。利用者支援時に顔を見て「笑ってへんやん」とお互いに言い合っており、和気あいあいと楽しく実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりについては、主に管理者がしているが、散歩時や行事への参加で交流をしている。	日常的には毎日の散歩時の挨拶がある。また年に数回ある事業所行事に地域の方々を招待し、交流を深めている。特に夏祭りは盛大で、地元テレビ局も来るぐらいで、地域のお祭りとして定着してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際等に認知症について説明をしたり、地域の方々からの質問に対応したり、徐々に浸透している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接施設との合同で2ヶ月に1度開催している。まだまだ課題も多く、今後改善していき有意義な会議運営をしていきたい。	2ヶ月ごとに開催継続しているが、出席者と開催日、開催場所の関係に今ひとつ課題を抱えており、検討中である。今年は家族の出席も考慮している。	事業所のサービス向上には、地域や行政の意見や情報も大事であるが、家族の立場での意見も大切で、ぜひ会議メンバーに家族の参加を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が直接市役所に出向き、現状や感染症対策など情報交換をしている。	管理者と市役所担当とは個人的にも強い協力関係が出来ており、事業所の実情報告だけでなく、各種相談事や情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者と話をしながら懸命に寄り添いながら身体拘束を防いでいる。	現在不穏な利用者がおられるので、事業所玄関を施錠しているが、利用者の状態を見てオープンする時間を増やす等、職員みんなで検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や普段の日常生活内でも話題に上がっており、それぞれが共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットの情報や市役所からの情報で、話し合いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、入居時に十分な説明をしている。面会時等でも話し合う場を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター内に御意見箱を設置しているが、活用されたのは僅かで、ほとんどが、管理者・職員に直接話し合っている。	面会時にいろんな話はするが、苦情は少ない。アンケートでも毎年苦情はない。今後、運営推進会議に家族の出席をお願いするので、そこでの発言を期待する。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は家族の様に接している。意見も出し合い、その都度解決に向けて話し合いもしている。	管理者の人徳からか、職員とはなんでも話せる関係づくりが出来ている。給与アップの話もあり、実現に向け管理者は努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今の現状を理解してもらいながら、代表者と話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心となり、研修のみならず、日々の生活から意識を持って励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部より内部での交流が多く進んでいないのが現状である。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかに生活が出来る様傾聴しながら関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり説明し、疑問や不安があれば解決出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設と相談しながら、家族に状況報告している。提携医にも相談・助言を求める時もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせるだけでなく状況に応じて対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも面会等を通じて、話し合いながら関係共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られた時など、混乱が生じない様に、職員が間に入り対応する時もある。	「入居前の事前調査表」があり、本人のなじみの人や場についての情報をあらかじめつかんでいる。近隣や遠く千葉からの友人訪問もあるが、まだまだ受身の支援である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の空間も大事であると考えており、状況に応じてそれぞれ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡はほとんどないが、その際は管理者が中心となり、相談・支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを、コミュニケーションを取りながら、その時、ベストな方法を考え対応している。	日常の食事やレク、テレビを見ているときとか、その時々話しかけながら、日常生活の中で思いや意向を把握するようにしている。把握したことは、申し送り時や昼休みの休憩時に話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前事前調査表を作っており、入居時に少しでも役立てられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にバイタルチェックしているが、その時以外でも、現状把握しながら、提携医に報告や救急要請し管理者が対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回会議があり、話し合い決定しているが、ケアプランは3カ月に1度見直し、家族に説明し理解を得ている。	連絡・受診・介護記録の3点ノートセットを確認しながら、毎月全員のモニタリングをし、3ヶ月ごとに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・受診・介護記録の3点ノートセットを活用し、情報の共有を図っている。問題点があれば、緊急性に限り、その日の職員同士で決定している事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が変化していく為、その場その場での対応に重点を置き、柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に考慮し、日々の生活が楽しく、豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の提携医に係られている入居者ばかりだで、適切に対応して頂いている。緊急時には、管理者・職員が対応している。家族にも協力をしてもらっている事もある。	本人・家族の希望で、現在は利用者全員が提携医がかかりつけ医になっている。一人月2回の定期往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設に看護師がおり、管理者から、助言や相談する場合もある。最終判断は管理者が行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、病院関係者・施設関係者・家族と連携を取りながら、安心して治療が受けられる様に関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には終末期対応は設備上の問題もあり難しいが、今までも何度か、終末期寸前までの方の対応はしている。	入居時に重度化や終末期に向けて、事業所の出来ることを本人・家族と話し合いをしているが、口頭での説明である。本人・家族の思いも揺れ動くし、事業所の対応能力も変化するるので、説明資料を指針化することを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で勉強会をしたりしているが、今後より力を入れていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練以外でも、現場独自で火災想定避難訓練を定期的の実施しており、より浸透してきている。	スプリンクラーが本年中に設置される予定である。火災想定消火・避難訓練を2ヶ月に1～2回行っているが、地震想定訓練がなされていない。	大規模地震が近い将来発生するとの予想されている。夜間の職員が一人しかいないという最悪の条件で訓練されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念をしっかりと持ちながら、状況に応じて、傷付けない様対応している。さりげなく注意をしている。	「怒らない」ことを大きな方針としている。利用者とは親身になって話を聞くようにしているし、職員同士が注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどが意思決定が出来ず、職員決定しているのが現状であるが、思い・希望は傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にし、希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った服装の用意や、季節に見合った衣類の着用に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸・湯のみ・茶碗は慣れ親しんだ物を使用しているが献立は業務委託である為、アンケート等で好みを聞き対応している。日曜日にはテラスでの食事をする事がある。	食材は業者から取り寄せているが、調理は全て食堂で行っており、利用者と会話しながら準備している。BGMを聞きながらの食事であり、職員は見守りをしながら話しかけていたが、会話の少ない静かな食事風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は職員がしている。材料・献立は業者委託の為栄養のバランスは良い。食事摂取量一覧表も作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア支援、週1でポリデント洗浄し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、プライバシーも守られ入居者からも好評である。安心感もあり、掃除も毎日している。定期的にトイレ誘導し、支援している。	自分の居室にトイレがあるので、「自分だけのトイレ」という安心感があるのか、利用者に喜ばれている。排泄パターンを生かした誘導をしており、ここに入居してから自立して行けるようになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消運動を取り入れたり、医師に相談し、助言を頂くケースもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自週2回午後から大浴場で実施している。榊原温泉の湯で、ゆったり気持ちよく入浴している。	1階のデイサービスの大浴場を利用している。大きくてゆったりと入れるし、温泉の湯があるので利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて対応しており、昼寝も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに投薬表を作成し、緊急時や提携医・家族面会時などの際の説明に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業(洗濯たたみ・掃除など)、掲示板、狭い空間にぎっしりと生活感が詰まっている。職員同士でも工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ・外食等行なっている。楽しみにされている方もいる。今出来る事を考え支援している。	事業所の周辺は緑が多く、日常的には天気の良い日は近隣の散歩がある。昨年からドライブを兼ねた季節の花見や外食、ショッピングなど毎月どこかに出かけるように計画している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は金庫内で預かっている。外出時等は使用出来る様入居時に家族に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて電話対応しているが精神的観点から慎重に見極めた上で管理者が最終判断している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は狭いが、職員同士工夫して「狭くても広く感じる」空間作りを考えている。写真など掲示物があり季節を感じられる様にしている。	壁には利用者手づくりの飾り物が掲示しており、広い廊下の突き当たりには、牛乳パックで作った大きな鳥居があり、「ふるさと神社」として手を合わせている。季節の七夕の飾りが頭の上に飾っており、職員の広く感じる空間作りを感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々とくつろげる空間は少ないが、その中で考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物は少なくシンプルだが、檜を使用しており、居室からは直接バルコニーの出入りが出来、そこからの景色が鮮明である。	居室にはクローゼット、洗面台、トイレ、ベッドにテレビ台が備えてあるので、利用者の家具類の持込は少なく、テレビや衣装ケース程度である。事業所は2階であるので、居室バルコニーからの景色は非常に良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間は狭く感じるが、職員が雰囲気作りを大切に、日々工夫している。		